

今回も管内から多数入賞

第50回

# 「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール

JAグループは今年も「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールを開催し、全国各地から約66,000点もの応募がありました。県コンクールの上位入賞作品は全国コンクールへと出品され、作文部門では、西和賀町立湯田小学校6年生の加藤未紗姫さんが見事、文部科学大臣賞に輝きました！今回は加藤さんの作品の他、県コンクールで上位入賞した小・中学生の皆さんをご紹介します。

## 図画部門



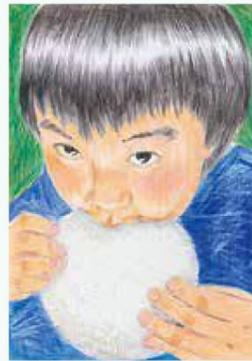
（社家の光協会  
東日本普及文化局長賞



「早く食べたいな」  
西和賀町立湯田小学校2年  
高橋 綾乃さん



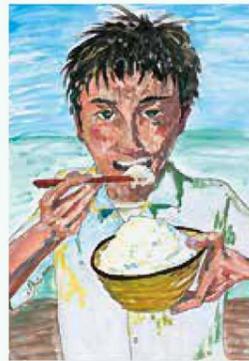
（株日本農業新聞  
東北支所長賞



「やみつきおにぎり」  
北上市立北北中学校3年  
菅原 山豊さん



優秀賞



「お米を味わう私」  
北上市立北北中学校3年  
菅原 悠さん



学校奨励賞

北上市立北北中学校

## 作文部門



※全国コンクール  
文部科学大臣賞



岩手県知事賞



「私の大好きなお米」  
西和賀町立湯田小学校6年  
加藤 未紗姫さん



優秀賞



「おにぎりを食べると元気100倍」  
西和賀町立湯田小学校6年  
高橋 駿汰さん



※全国コンクール  
学校奨励賞

西和賀町立湯田小学校

### 作文部門

- 北上市立江釣子小学校4年 高橋 千恵さん
- 北上市立江釣子小学校4年 八幡 袖羽さん
- 大槌町立大槌学園5年 小國 まやさん
- 大槌町立大槌学園5年 三浦 壮恭さん
- 花巻市立湯田中学校3年 宮川 芽久さん
- 花巻市立湯田小学校2年 平賀 春陽さん
- 北上市立黒沢尻北小学校6年 高橋 龍聖さん
- 北上市立黒沢尻北小学校6年 藤田 珠李さん
- 北上市立黒沢尻北小学校6年 藤原 恵さん
- 北上市立北北中学校2年 小館 莉望さん
- 北上市立江釣子中学校2年 高橋 尋輝さん

### 図画部門

- 北上市立江釣子小学校4年 高橋 千恵さん
- 北上市立江釣子小学校4年 八幡 袖羽さん
- 大槌町立大槌学園5年 小國 まやさん
- 大槌町立大槌学園5年 三浦 壮恭さん
- 花巻市立湯田中学校3年 宮川 芽久さん
- 花巻市立湯田小学校2年 平賀 春陽さん
- 北上市立黒沢尻北小学校6年 高橋 龍聖さん
- 北上市立黒沢尻北小学校6年 藤田 珠李さん
- 北上市立黒沢尻北小学校6年 藤原 恵さん
- 北上市立北北中学校2年 小館 莉望さん
- 北上市立江釣子中学校2年 高橋 尋輝さん

## 作文部門

全国コンクール

文部科学大臣賞

県コンクール

岩手県知事賞



西和賀町立湯田小学校6年  
加藤 未紗姫さん

## 「私の大好きなお米」

「今年もなんとか元気に育っているなあ」  
夏休みの宿題をしていると、おじいちゃんとお父さんのほっとしたような声が聞こえてきました。今年私が住んでいる西和賀町も、例年に比べて暑くなるのが早く、お米農家にとって心配な夏になりました。だから、暑さに負けずに、お米の苗が元気に育っていることに、二人はほっとしていたのです。

お米は、私にとって、とても大切な存在です。でも、お米を大切なものだと実感したのは最近です。きっかけは、「お米が高くて買えない」というニュースです。お米がなかったり、五キロ四千円から五千円近くしていたりと、とてもおどろきました。私の家には田んぼがあって、お米を育てています。私も小さいときから、田植え

や稲刈りを見たり、手伝ったりしてきました。家に田んぼがあるのがふつうで、みんなの家にもあるかと思っていました。だからお米を買う習慣はなく、売っているお米や値段を見ることがあまりありませんでした。お米の値段のニュースを見てからは、気になってよく見るようになりました。

でも、わたしは思います。「高い」のではなく、「それだけの価値がある」のだと。一粒のお米ができるまでに、どれだけの努力があるかを知っているからです。田を耕し、水を張り、苗を植えて、水の管理をして、稲を刈ります。最近では、気候の変化で、お米を育てにくくなっています。また、肥料も人件費も高いです。お米を育てるのは、時間もお金も手間もかかる大仕事です。だから、お米の値段を高くし

ないと、農家の人達もお米を作っていけなくなってしまうのです。お米は、日本の伝統的な食文化であり、食卓に欠かせない主食です。それを守ることは、私達の未来を守ることだと思います。  
今年の田植えも手伝いました。おじいちゃんやお父さんが機械で苗を植えます。機械で植えられないすみっこは私達の出番です。おばあちゃんに教えてもらいながら、久しぶりに帰ってきたお兄ちゃんと一緒に手で植えました。もちろん疲れるけれど、楽しさのほうが大きいです。  
学校でも全校で田植えと稲刈りをします。先生も子どももはだして田んぼに入って、楽しみながらお米作りをします。収穫したお米は、みんなでおにぎりを作って食べたり、給食センターや老人ホームにプレゼントしたりします。田植えや稲刈りを通して、地域の人とふれあい、さらにみんながお米作りに興味をもってくれたらうれしいなと思います。

「おいしいね」  
その一言がうれしいです。  
お米は、人を笑顔にする力があります。ごはんがあると、元気になります。そんなお米が大好きです。私は、大人になっても、家の田んぼがあればいいなと思うし、少しでも農業にたずさわりたいと思います。

